

2026年6月

大津市長 様

日本黒鉛工業株式会社 瀬田工場

取締役工場長 塚本 薫

環境保全協定に基づく報告書の提出について

環境保全協定第4条第1項の規定に基づき、2025年度の環境保全活動の取組について、別添のとおり報告いたします。

2025年度環境保全活動報告書

日本黒鉛グループは社会環境の変化が激しい時代においても永続的に社会から必要とされ、地球環境に貢献できる企業であり続けたいと考えています。その実現のために瀬田工場では「環境との調和」の理念のもと、環境マネジメントシステムを通じ環境保全に取り組んでいます。

製品開発では環境に配慮した設計を取り入れ生産から原材料の使用・廃棄まで環境負荷低減を考慮しています。生産では効率化・合理化をはじめ使用する電気や燃料等のエネルギーを削減し、CO₂ 排出量を少しでも低減するように努力しています。

温暖化対策、SDGs、人権問題、サステナビリティなど社会からの要請は増えて、その責任を果たす事が求められています。弊社は製品を通じた地球環境への取組だけでなく事業活動を通じた環境への負荷低減、顧客満足度向上を目指して、社会からの要請を真摯に受止め、企業として責任を果たせるように努めます。

2025年度は温暖化ガスの排出削減、産業廃棄物の削減、騒音の低減、水質汚染物質の排出削減に精力的に取り組みました。また、大津市の環境週間行事(琵琶湖市民清掃)に賛同し夏季だけでなく冬季(年末年始)も工場周辺の環境整備(清掃)を実施しました。

今年度も前年度同様、温暖化ガス・産業廃棄物・水質汚染物質の排出削減や騒音の低減に新たな気持ちで取り組み、目標の達成に向かって着実に改善を進めていきます。

2019 年より工場周辺の環境整備(清掃)を毎月 2 回実施し地域社会に貢献すると共に今後も環境マネジメントシステムを通じ環境保全、環境改善に全従業員一丸となって積極的に取り組んでまいります。

日本黒鉛工業株式会社 瀬田工場

取締役工場長 塚本 薫

目 次

1. 会社概要
2. 日本黒鉛工業株式会社瀬田工場環境方針
3. 瀬田工場環境マネジメントシステム
 - 3-1. ISO 14001:2015 更新審査
4. 環境保全活動の経緯
 - 4-1 省エネルギー(温暖化ガスの排出削減)
 - 4-2 産業廃棄物の削減
 - 4-2-1 洗浄廃液の削減(リデュース)
 - 4-2-2 産業廃棄物(廃プラスチック)のリサイクル維持管理
 - 4-3 社外からの苦情低減(工場境界騒音監視状況)
 - 4-4 水質汚染物質の排出監視
5. 環境との調和
6. 緊急事態対応
 - 想定訓練
7. 環境教育
8. 問い合わせ先・連絡先

1. 会社概要

社 名 : 日本黒鉛工業株式会社

所 在 地 : 大津市唐橋町9番22号

設 立 : 大正8年3月29日

資 本 金 : 9000万円

従 業 員 : 198名(2025年7月)

瀬田工場: 大津市栗林町5番1号

瀬田工場全景



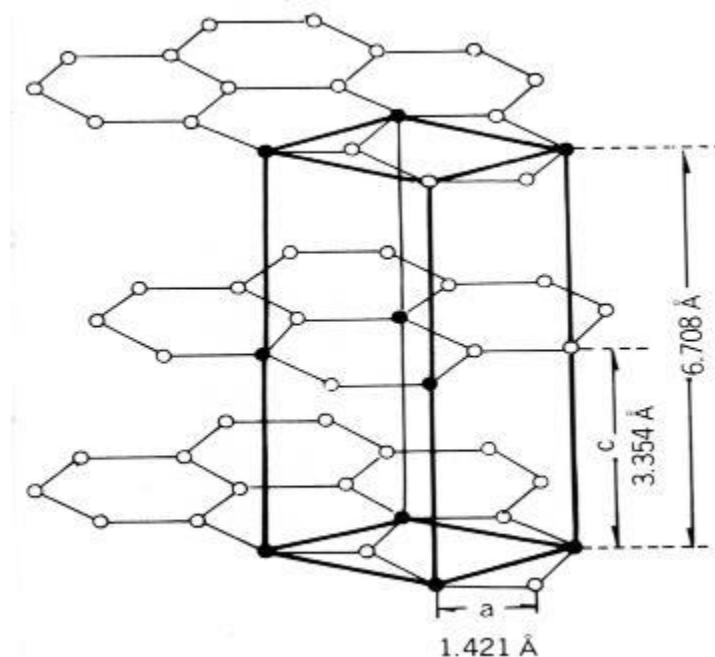
瀬田・第2工場全景



瀬田工場 新原鉱倉庫全景



黒鉛とは……



黒鉛の結晶構造

『黒鉛』は鉛(Pb)ではありません。ニックネームのようなものです。正式名は石墨(Graphite)といいます。ダイヤモンド・石炭・カーボンブラック等と同様炭素(C)の仲間です。結晶構造の違いにより、ダイヤモンドと兄弟でも性質も形状も異なっています。(黒鉛の結晶構造を参照して下さい)

『黒鉛』は、潤滑性・導電性・耐火性・耐酸、耐アルカリ性に優れており、これを4大特性と呼びます。日本黒鉛は、これらの特性を使用用途に合わせ、特性を100%発揮できるように仕上げて提供しております。潤滑の特性で使用される用途には、「鉛筆の芯、新幹線のパンタグラフ、自動車のブレーキパッドなどがあります。また、鍛造やダイキャスト向けの潤滑・離型剤としても使用されます。導電性の特性を利用した物には、各種電池の導電助剤、導電塗料は集電体として抵抗を下げる効果を有しております。デジタル製品の放熱やシールド、膜レンズスイッチ用途にも多岐に渡って利用されております。その他、黒鉛の使用用途としては様々な分野がありますが、一般的にあまり目に留まる部分や箇所には使用されてはおりません。

すなわち、“縁の下の方持ち”としてあらゆる産業の基礎として、今後も社会貢献が出来るよう様々なニーズに対応できる商品を開発し、提供できる企業を目指してまいります。

日本黒鉛工業(株)瀬田工場 製造品目

第二製造技術部

乾電池用・鉛筆芯用・粉末冶金用・刷子用・ガスケット用黒鉛粉末



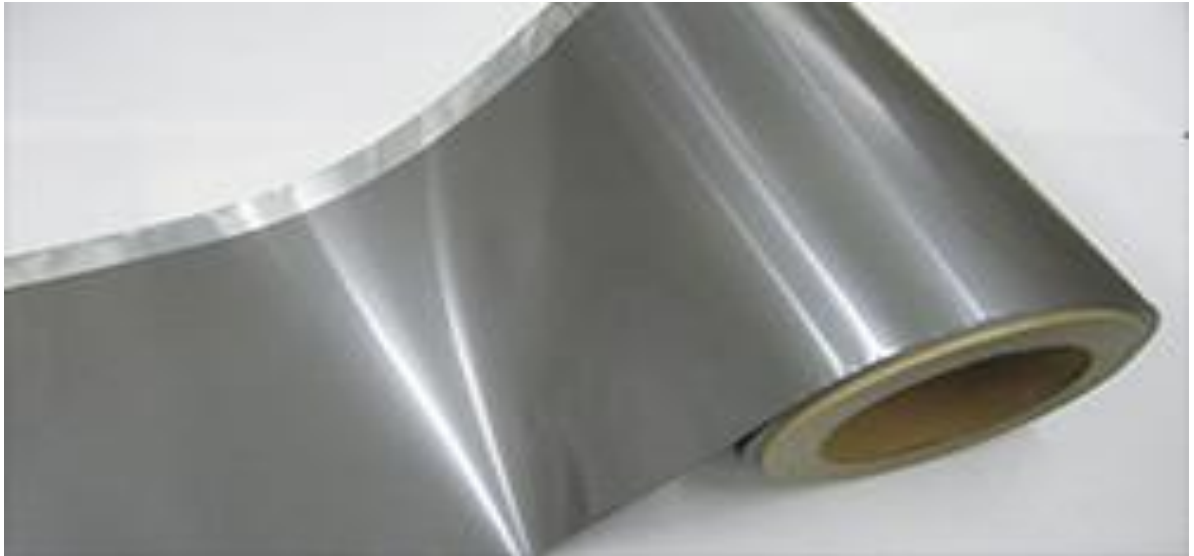
第一製造技術部

鍛造用・ダイカスト用潤滑剤・スクリーン印刷用、電池用、キャパシタ用各種導電性塗料 など

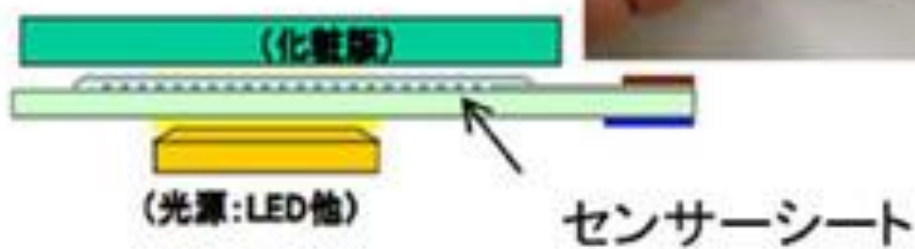


第四製造技術部

印刷技術とエッチング＆表面処理を基礎とした電子部品・加工品、プライマー塗工箔、RF-ID 用アンテナ配線板、Touch Sensors、高透明 PET 配線板



照光タッチキー



2. 日本黒鉛工業株式会社環境方針

環 境 理 念

当社は、豊かな自然環境に恵まれた母なる湖、琵琶湖を背景に控えているなか、地球環境の保護が人類共通の重要課題の一つとして位置づけ「環境との調和」を基本理念として、黒鉛粉末・潤滑離型剤・電子部品等の製造をしています。

「豊かな自然を次世代へ」を掲げ、積極的な環境保護活動の取り組みを推進します。

環 境 方 針

- 1) 事業活動に関わる環境影響を常に意識し、環境に関する法令・協定・顧客要求等を順守すると共に管理水準の向上、環境汚染の予防、気候変動への対応(カーボンニュートラルに向けた取組他)を推進し環境管理システムを活用し、継続的な改善を図ります。
- 2) 環境影響低減のための重点取り組み事項を下記に示します。
 - (1) 天然資源の有効利用とエネルギー等の使用量削減を推進する。
 - (2) 環境負荷物質の発生を抑制し、環境汚染の未然防止を推進する。
 - (3) 産業廃棄物の減量化と分別回収による資源のリサイクルを推進する。
 - (4) 企業戦略として環境に配慮したモノづくりを推進する。
 - (5) 業務改善やコスト低減にもつながる環境に有益な取り組みを推進する。
 - (6) 気候変動への対応を最優先課題と考え、カーボンニュートラルを推進する。
- 3) 環境目標を設定し、定期的に見直し、継続的改善を図ります。
- 4) 環境保護の推進達成のため全従業員をあげて活動に取り組みます。
- 5) 本方針は、全従業員に周知するとともに一般にも公開します。

2025年 7月1日

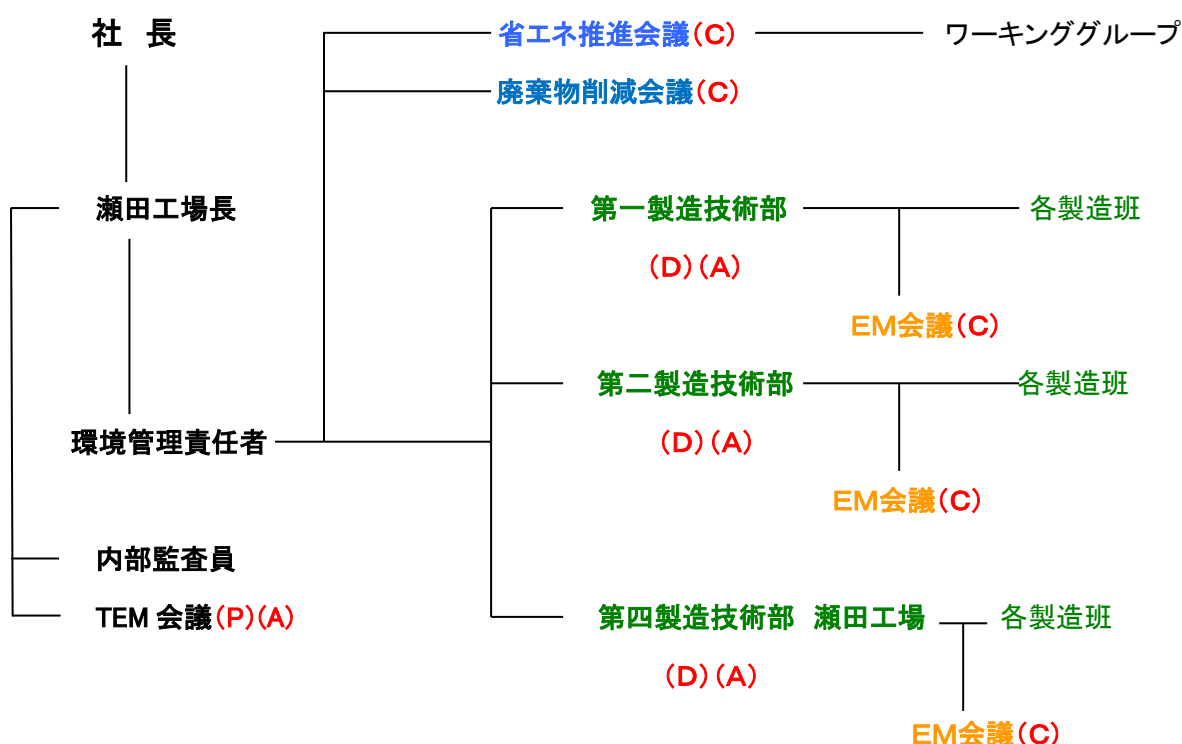
日本黒鉛工業株式会社 瀬田工場

取締役工場長 塚本 薫

3. 瀬田工場 環境マネジメントシステム

日本黒鉛工業株式会社・瀬田工場 環境保全組織図

日本黒鉛工業株式会社（PDCAサイクル）



TEM会議 : ISO事務局を議長とし、各部門の環境整備に関する審議・公害問題に対する対応策の決定・当工場の順法性の確認及び環境目標の進捗管理を行う。

各製造部 : 環境改善目標の実行実務を担当する。責任者は各製造部長。

各部門EM会議 : 該当部門内外の環境影響項目に関する監視・測定と改善および部門実行計画の進捗管理を行う。

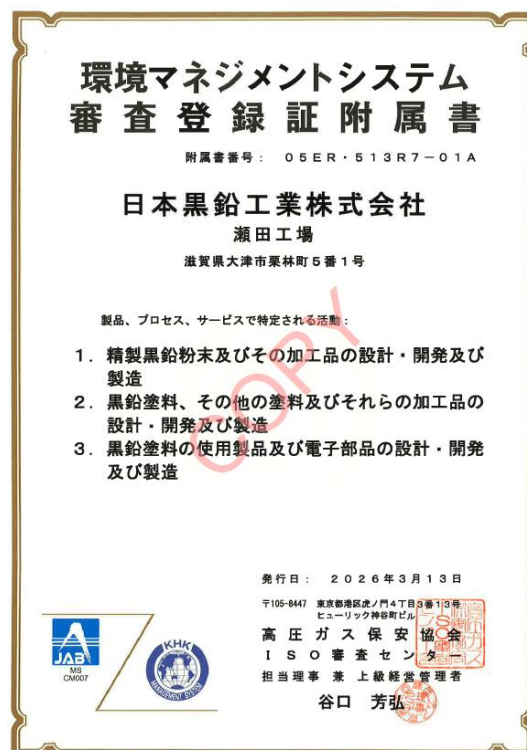
省エネ推進会議 : 省エネルギーに対する対策の検討および指示を出す。
(カーボンニュートラル推進)

廃棄物削減会議 : 廃棄物に対する削減対策の検討および指示を出す。

3-1. ISO 14001:2015更新審査

2005年3月18日にISO14001:2004の審査登録証を取得し、更なる環境改善を目指し取り組みを開始しました。

2026年2月に審査を受け、登録継続となりました。2025年度も新たな環境目標／実行計画を立ち上げ目標達成に向け日々取り組んでおります。



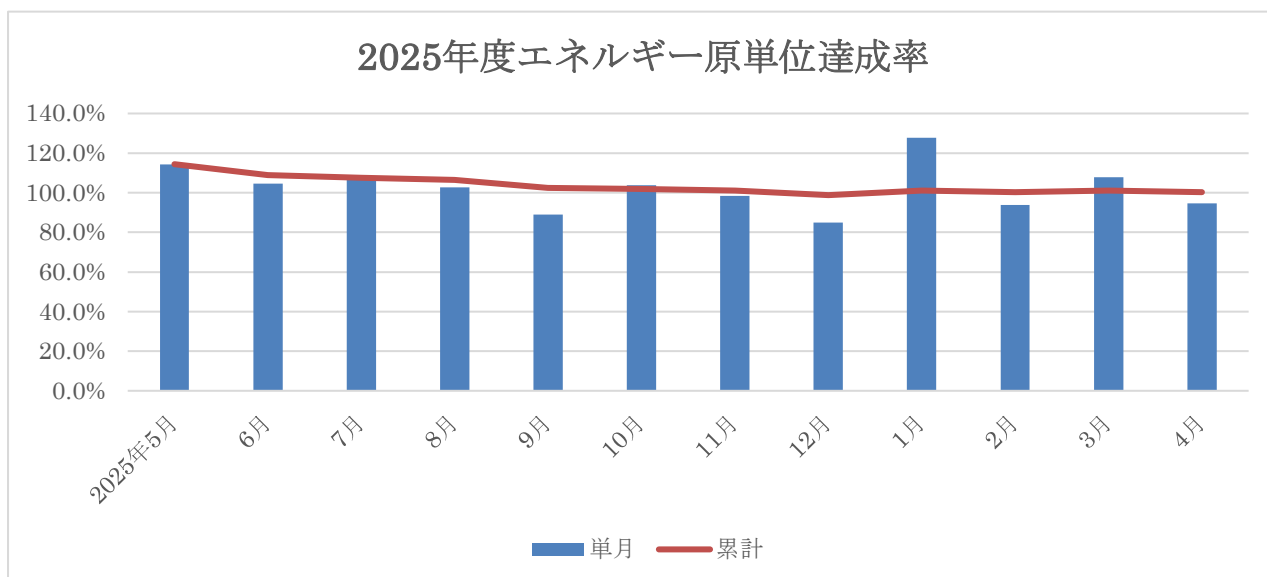
4. 環境保全活動の経緯

4-1 省エネルギー(温室効果ガスの排出削減)

弊社は省エネ法第一種指定工場の指定を受け、総括的エネルギーの削減に取り組んでおります。

2025年度の電力使用量は1,583万 kwh(前年比約2.2%減少)となりました。他エネルギーを含めた排出削減にも取組み、目標を「前年度CO₂排出量の原単位1%以上削減」を掲げ、全工場を挙げ合理化を推進し目標達成のため取り組みました。

効果的な省エネ活動へ繋げるため省エネ診断および、省エネ伴走支援を受けエネルギー削減に取り組みました。



2025年度も「前年度比、原単位1%以上削減」を目標とし、手段を考案し取り組んで参りました。使用電力が低減でき、ほぼ目標通り1%削減となりました。(達成率:100、3%)

中東情勢による原材料の供給不安や価格高騰、エネルギー価格も上昇し受注が影響される事を懸念していますが次年度も目標達成に向けて手段等を検討し毎月の施策実施確認を行いながら、継続的に行ってまいります。

また、2026年1月「日本黒鉛グループカーボンニュートラル取り組み宣言」を行い、2050年カーボンニュートラル実現に向けてのロードマップをHPにて公開しました。更には中小企業向けSBT認証を2026年5月に取得し、データ開示の計画です。

4-2 産業廃棄物の削減

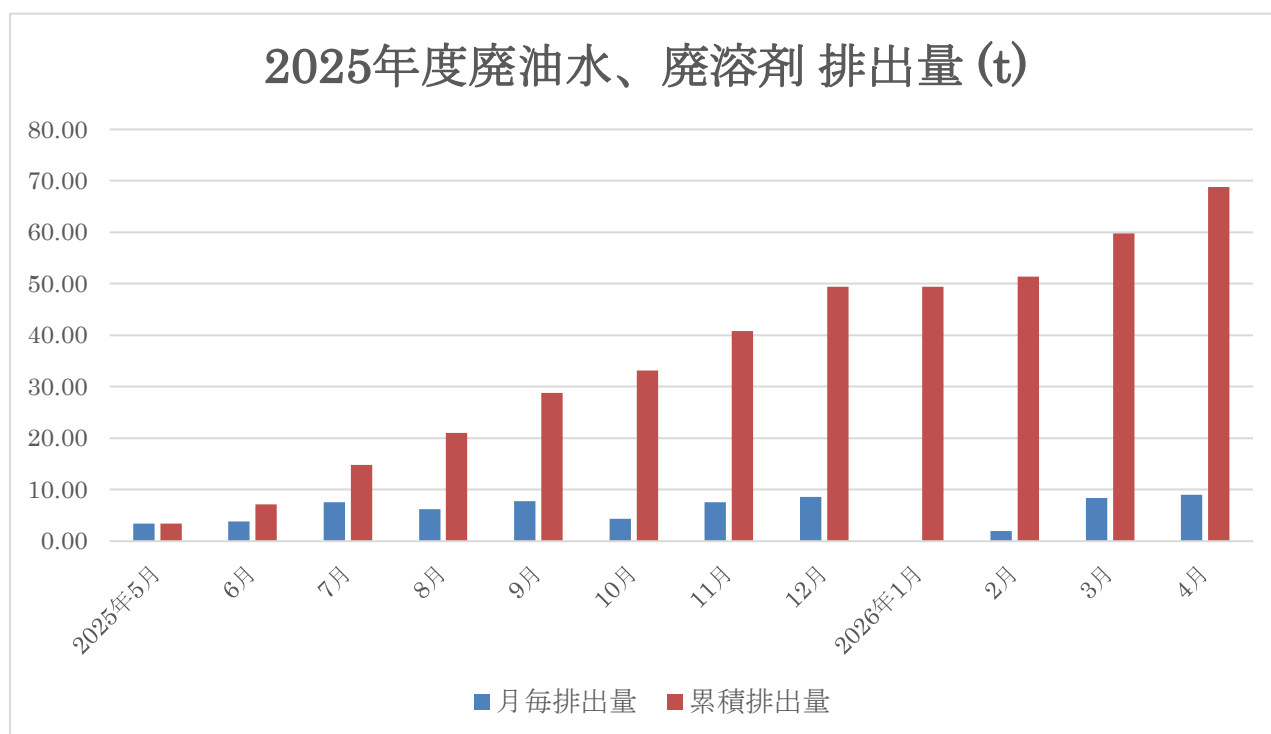
弊社においては黒鉛の精錬・粉碎工程からの汚泥、分散体製造時の洗浄排水、導電材製造時の廃プラ・廃ウレタンが廃棄物の主なものであり、環境目標として決定し、数値目標を立て計画的に削減して将来を見据え、3R(リデュース・リユース・リサイクル)を考慮した取り組みを継続して実行しております。その結果として2011年度より廃プラスチックについては「ゼロエミッション」を達成でき、現

在も維持管理できており多少ではありますが、資源の枯渇が防止できていると思っております。

4-2-1 洗浄廃液の削減(リデュース)

2025年度は維持管理項目として、2024年度廃油水溶剤排出量(42、4トン)に対し削減する計画にしました。

2025年度実績では68、8トンと目標を達成する事は出来ませんでした。近年は少量多品種化が進み、品質要求も厳しく清掃作業も増える中、歩留まり低下も相まって廃液量の増加となりました。今年度は歩留まり向上に取組み、廃液の削減に取り組んで参ります。



4-2-2 産業廃棄物(廃プラスチック)のリサイクル維持管理

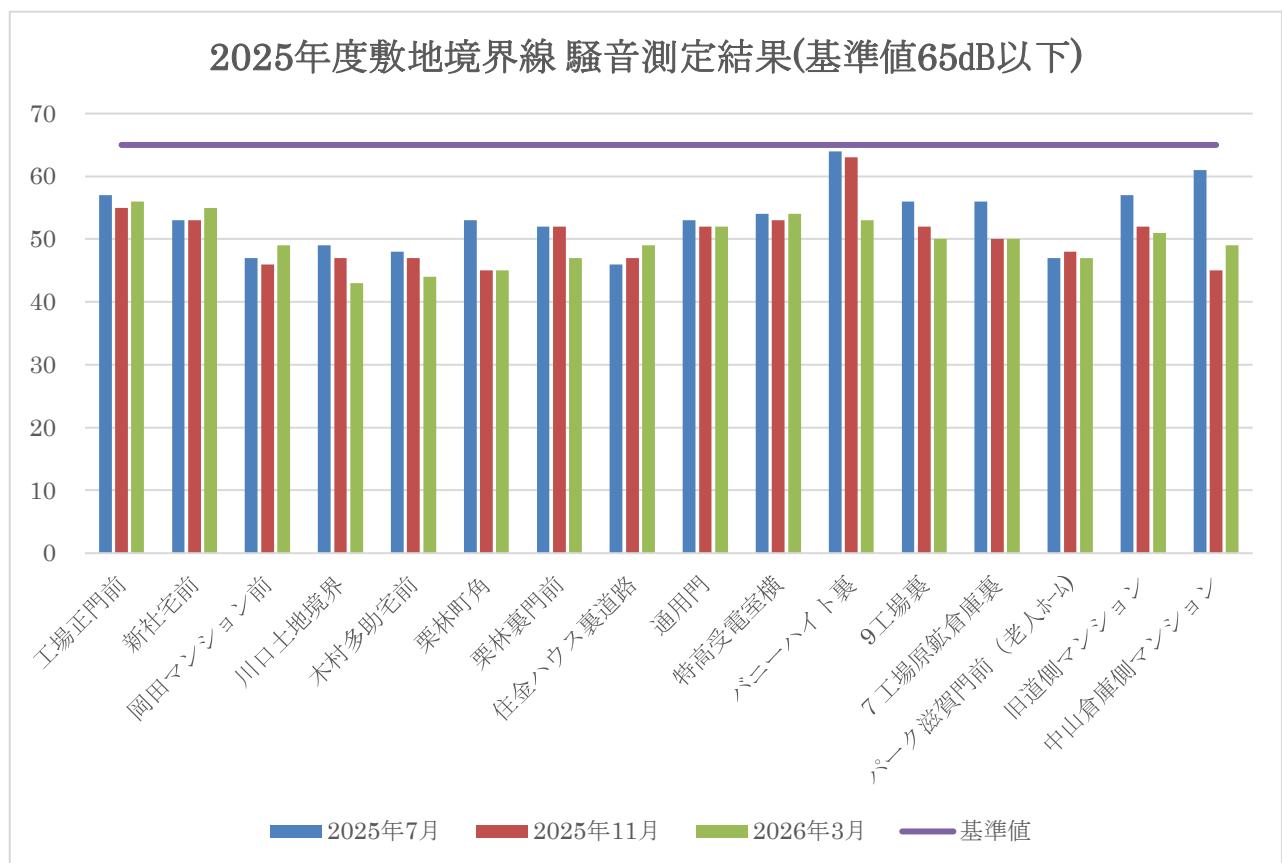
廃プラスチックとしては、導電製品歩留り外のウレタンが主ですが、製品製造上やむを得ない廃棄物であり、削減は困難なため一部リサイクル(ヒートリサイクル)として処理しています。

今年度も廃プラ廃棄物の排出は「0」を達成し維持管理を継続中

で塩ビ・ガラス・ゴムプラスチックについては、リサイクル用途も見つけることができ、今後は削減をめざし活動していく所存です。

4-3 社外からの苦情低減(工場境界騒音監視状況)

2025年度も、敷地境界における騒音レベルを基準値内に維持することとし、従業員の環境改善提案による騒音防止を目的とした対策を実施しつつ、工場境界の騒音レベルを年3回測定した結果は規制値についてはクリアしております。また、定期公害パトロールを週1回実施して環境保全の維持管理及び監視に努めております。

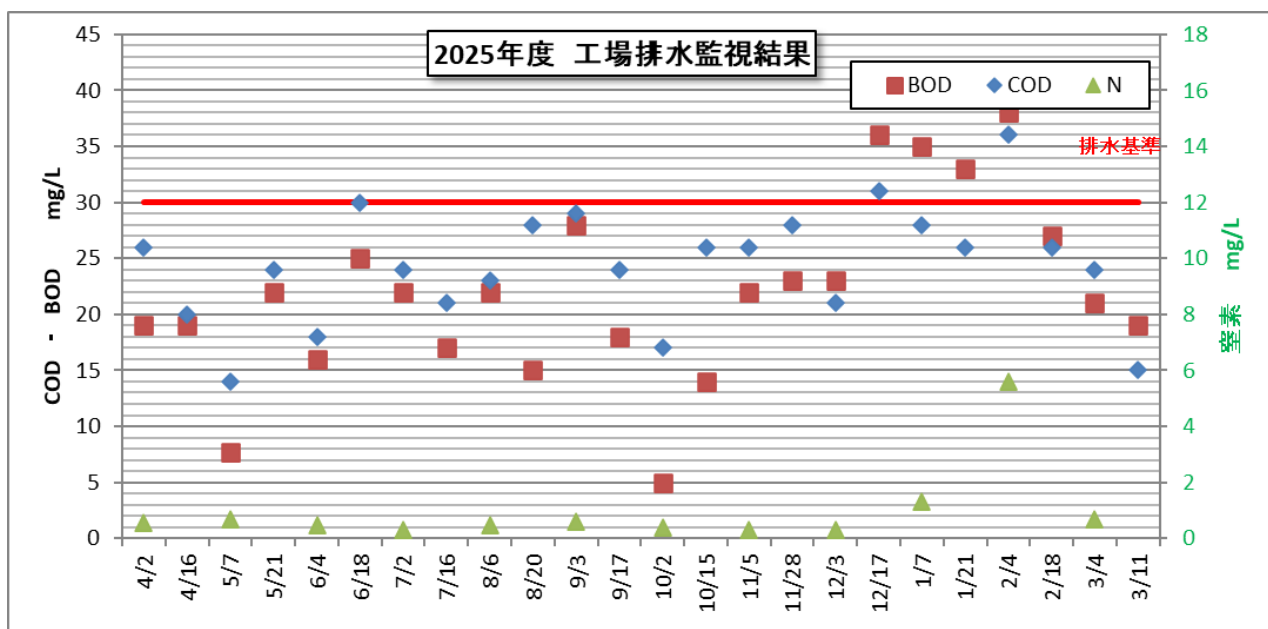


4-4 水質汚染物質の排出監視

環境方針にもあるよう、母なる琵琶湖の水質を美しく保持するために、水質汚染物質を放出しないよう日夜監視を行い、また定期測定も実施しながら水質改善に取り組んでおります。

毎月2回の定期測定を行い、流出排水のBOD・COD値を監視しております。

2025年度は12～2月採取分でBOD、12月、2月採取分でCODが基準値を超過しました。現在数値が高い流入経路を止め、原因調査をしております。以降、基準値を満足しております。引き続き監視を継続し、基準値満足を安定できる様取り組んでまいります。



5. 環境との調和

近年は瀬田第二工場も含めて、周囲近隣の環境整備を実施すると共に環境の改善に努めています。また、公害監視パトロールを毎週実施し、周辺住民の方よりのご質問やご意見等を受けながら周辺自治会等と連携をとりコミュニケーションを図っております。

6月には環境週間行事(琵琶湖市民清掃)の趣旨に賛同し工場周辺の草刈り及び工場境界周辺の清掃を実施しました。夏期休暇・ゴールデンウィーク前・年末にも工場周辺の草刈りと清掃を継続して実施しています。

今年度も2019年度から実施している瀬田工場周囲近隣の環境美化活動を積極的に推進する手段として毎月2回、年間スケジュールに基づき清掃を継続して実施しました。

また2024年度より新たな取り組みとして、11月、12月に瀬田工場前道路の落ち葉拾いを週2回実施するようにしました。

今後も日常の清掃活動を通して環境美化の維持に努めます。

2025年度 琵琶湖市民清掃協賛、清掃の様子
瀬田工場前道路脇(至草津)before





6. 緊急事態対応(想定訓練)

緊急事態に備えて各部署(部門)で緊急事態を想定し、環境法規の順守(コンプライアンス)と近隣への影響を防止するため、各部門で緊急事態を想定し、計画を立ててその被害を最小限に押えることを目的として訓練しております。

おもな緊急事態として想定しているのは、

- ・製品の漏洩
- ・火災
- ・危険物の誤使用
- ・指定化学物質の誤使用

などが想定されておりその対応の手順書を作成し、緊急事態に素早い対応が出来る様に訓練しております

総合排水施設からの緊急事態訓練の様子



防火・防災 避難訓練の様子



7. 環境教育

環境保全・環境改善を推進するためには、全員参加と環境に関する知識が必要であり、また、内部コミュニケーションを活発化する為に計画を立てて従業員教育を実施しております。



教育の活動は、小集団活動を基本として実施しておりますが、全工場従業員に対して DVD 教材とした教育も実施しております。また、環境パトロール等も積極的に取り組んでいます。

環境に対する意識も向上してきており、教育の効果が有効であったと自負しております。

以上、弊社2025年度環境保全活動の経過を報告させていただきます。

当報告書についての御意見・御質問がございましたら、下記担当者までご連絡お願い致します。尚、当社「環境方針」及び「環境報告書」が御入り用の場合も、下記担当者までご連絡お願い致します。

日本黒鉛グループ

■SDGs 行動宣言

わが社は、企業活動を通じて、社会課題の解決に取り組み、SDGs 達成に貢献します。

■MLGs への取り組み

日本黒鉛では、社是である『和と前進』『人の和無くして企業の発展なし、企業の発展無くして人の和なし』を原点とし、「モノづくりを通して、人々の幸福と社会づくりに貢献する」という使命に於いて、社会の持続可能な発展に貢献できるよう取り組んでおり、「MLGs」に対する取り組みも、その一つです。

■しが CO₂ ネットゼロムーブメントへの取り組み

「2050年までに二酸化炭素の排出量を実質ゼロ(=CO₂ネットゼロ)にすること」の取り組みに賛同し、行動する事を宣言しております。

■カーボンニュートラル取り組み宣言

日本黒鉛では、2030年までに GHG 排出量を46%削減を目指します。(Scope1・2 2013年度実績比)

8. 問い合わせ先・連絡先

日本黒鉛工業株式会社 瀬田工場

環境管理責任者： 村田 学

環境事務局： 堀井三明

住 所： 大津市栗林町5番1号

電 話： 077-545-3375

F A X： 077-543-1167

E メール： m-horii@n-kokuen.com

U R L： <https://www.n-kokuen.com>